

不規則性抗体スクリーニング検査における酵素法の有用性についての研究

1. 研究の対象

2016年1月～2016年12月に当院で不規則性抗体スクリーニング検査を受けられた方

2. 研究目的・方法

赤血球輸血を実施する際には、患者さんの血液中に赤血球と反応する抗体がないかを調べる不規則性抗体スクリーニング検査や、輸血用血液と患者さんの血液を用いた交差適合試験を行い、検査に適合した安全な製剤を選択し輸血を実施します。

特に不規則性抗体スクリーニング検査は、交差適合性試験に比べ検査の感度および信頼性に優れているとされ、可能な限り交差適合性試験に先立って実施すべきとされています。

不規則性抗体スクリーニング検査には「間接抗グロブリン法」「酵素法」「アルブミン法」など様々な方法がありますが、「酵素法」「アルブミン法」は実施する意義は低いとされています。

本研究は不規則性抗体検査を実施された患者さんの結果を後方視的に解析して、不規則性抗体スクリーニング試験における「酵素法」の有用性を確認することを目的としております。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病名、性別、輸血歴、不規則性抗体検査結果、輸血副作用等の発生状況 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので、ご連絡下さいますようお願い致します。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までご連絡下さいますようお願い致します。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

埼玉県所沢市並木 3-2 04-2995-1511 (内 5178))

防衛医科大学病院 輸血・血液浄化療法部 研究責任者： 坂口 武司 sakagut@ndmc.ac.jp